

ふるさと小野町会 ふれあい通信

素晴らしかった

還暦クラス会

青木 ミヨ子

(夏井出身)



今年の夏は記録的な猛暑と、アテネオリンピックのメダルラッシュに沸き、暑い夏となりました。

私がふるさと夏井を後にし上京したのが昭和三十八年。翌年が東京オリンピックでした。その時大変な盛り上がりだったのを思い出します。

それから数えて、ちょうど十回目のオリンピックが行われた今年、私にとっても素晴らしく感動的な出来事がありました。

一月三日、三春町の馬場の湯で還暦を祝うクラス会が行われたのです。私が夏井中学校を卒業したのが昭和三十四年ですから、なんと四十五年ぶりのクラス会です。旧友との再会に胸を膨らませ、郡山駅から磐越東線に乗り込んだその時、

偶然にも同級生四人と少し早い再会を果たしました。私の心は瞬時に中学時代に帰り、その時の盛り上がりよといったら、今の女子高生に負けないほどでした。旅館に着き受付を済ますと、そこには昔の面影を残しつつもしっかりと年令を重ねた六十歳の面影が…。四十五年振りだといつものに、すぐに昔の呼び名が飛び交い、気持ちも言葉もすっかり中学時代に戻ってしまいました。最近では物忘れが多いと娘に叱られることもあるのですが、不思議なものですね。

会場には手作りのイラスト入りで還暦同級会の横断幕が掲げられており、『六十歳まで元気でこれたことに感謝しよう!』『一日一日を大切に!』と書かれておりました。

「ああ、みんな若く見えても六十歳かあ…。」と、この時はやはり実感しました。

悲しくもこの日を待たずに亡くなられた友人が四人もおりました。全員で黙祷を捧げ、ご冥福をお祈りしてから開会となりました。クラス会が盛り上がったことは言うまでもありませんが、私が一番嬉しかったのは幹事さんのご努力で配られた『還暦記念文集』と『思い出のアルバム』(ビデオテープ)です。

還暦記念文集には、それ

ぞれの近況や家族のこと、現在チャレンジしていること等が書かれており旧友たちが生き生きと生活している様子が目に浮かびましたが、ほぼ全員が「健康に気をつけよう」の一言で結んでおり、どんなに昔と同じ気持ちでもやはり六十歳なのだと思ひ知らされました。思い出のアルバムには、小学校入学から中学校卒業までの主な行事、修学旅行などの写真が収められていました。何しろカメラも珍しい時代でしたから、もちろん白黒で、写りも良くありません。それが音楽入りのとてもきれいな映像に仕上がっているではありませんか!私の驚きと感動はとも言葉では言い表せません。忘れかけていた小さな出来事までが、つい昨日のことのように思い出され、嬉しくて嬉しくて家族を集め上映会まで行いました。

私の一生の宝物です。

ふるさとを離れ上京し、現在関東圏内に住んでいる同級生とは、六年前位から再び交流を深めるようになりました。春のお花見に始まり、夏は暑気払い、秋はハイキング、冬はもちろん忘年会…。毎回楽しく賑やかな時間を過ごしています。会うたびに友情の素晴らしさ、有り難さを実感しています。

素晴らしい同級生に恵まれたことに感謝!
いつまでも何歳になっても皆で集まれるよう「健康に気をつけよう!」

こんにちは! パトリシアです



小野中 吉田雅俊君 福島県中学生英語弁論大会創作の部で第5位

先月、私は田村郡英語弁論大会を見に行き、参加した浮金中学校の3人と小野中学校の3人を応援してきました。全員がベストを尽くして、素晴らしいスピーチをしました。スピーチを習うために全員がたくさんの時間を使い、一生懸命頑張ったことに敬意を表します。大会に参加した42名の中学生のスピーチはそれぞれ印象的でした。

スピーチを聴きながらひとつ気づいたことは、全員が英語の正しい発音を熱心に練習してきたことです。参加者の中には、ネイティブスピーカー(英語を母国語として話す人)に近い発音で話した人も、少し日本のなまりが入っていた発音で話した人もいましたが、全員の発音がとても分かりやすいと思いました。

英語を勉強している日本人が「ネイティブスピーカーみたいに話せるようになりたい」とか「日本のなまりのない英語で話したい」などとよく私に言います。しかし、いろいろな国でいろいろな違う英語が使われています。私は、オーストラリア人やイギリス人の友達と話をする時、みんなの発音や使っている単語は違いますので、笑ったり冗談を言ったりしますが、もちろん私はお互いの英語を簡単に理解することができず。そして、他の国の英語の発音(例えばインドやジャマイカなど)はさらに違うでしょう。でも、私達の英語は自分達の文化と生活に影響されて、自分達の国を表します。ネイティブスピーカーの発音は、どこの国の発音か決めることはできないでしょう。

それは外国語として英語を話す人もそうだと思います。母国語に影響された発音やイントネーションのおかげで、母国の味わいが話し方に影響すると思います。英語を共通語として使い、いろいろな国の人と話せることは素晴らしいことだと思いますが、みなさんの英語がまったく同じでないことも素晴らしいと思います。

Last month, I went to the Tamura County English Speech Contest to cheer for the three students from Ukigane Junior High School and the three students from Ono Junior High School who participated in the contest. Everyone did their best and presented wonderful speeches. I respect all of the hard work and time that each student dedicated to learning his/her speech, and I was impressed by all of the participants.

One thing that I noticed while watching the speeches was how much each student had practiced their English pronunciation. During the contest some students sounded almost like native speakers and other students had more noticeable Japanese accents, but I could understand the students very clearly.

In Japan, English students of all ages have often told me that they want to sound more like a native speaker, or that they don't want to speak with a Japanese accent. But, there are many different kinds of English in use in the world. My Australian and English friends and I often joke about our different pronunciations and vocabulary choices, but of course we can all understand one another. People from other countries that use English, such as Jamaica or India speak with even more different pronunciations. Each of our pronunciations is affected by our cultures and lifestyles, and represents our home countries. Who can decide what a native speaker sounds like?

I think this is also true for people who those who speak English as a second language. As the pronunciation and intonation common to a speaker's country comes through in his/her speech, so does the flavor of his/her country. How wonderful it is that people from countries all over the world can communicate in English; how sad it would be if we all sounded exactly alike.